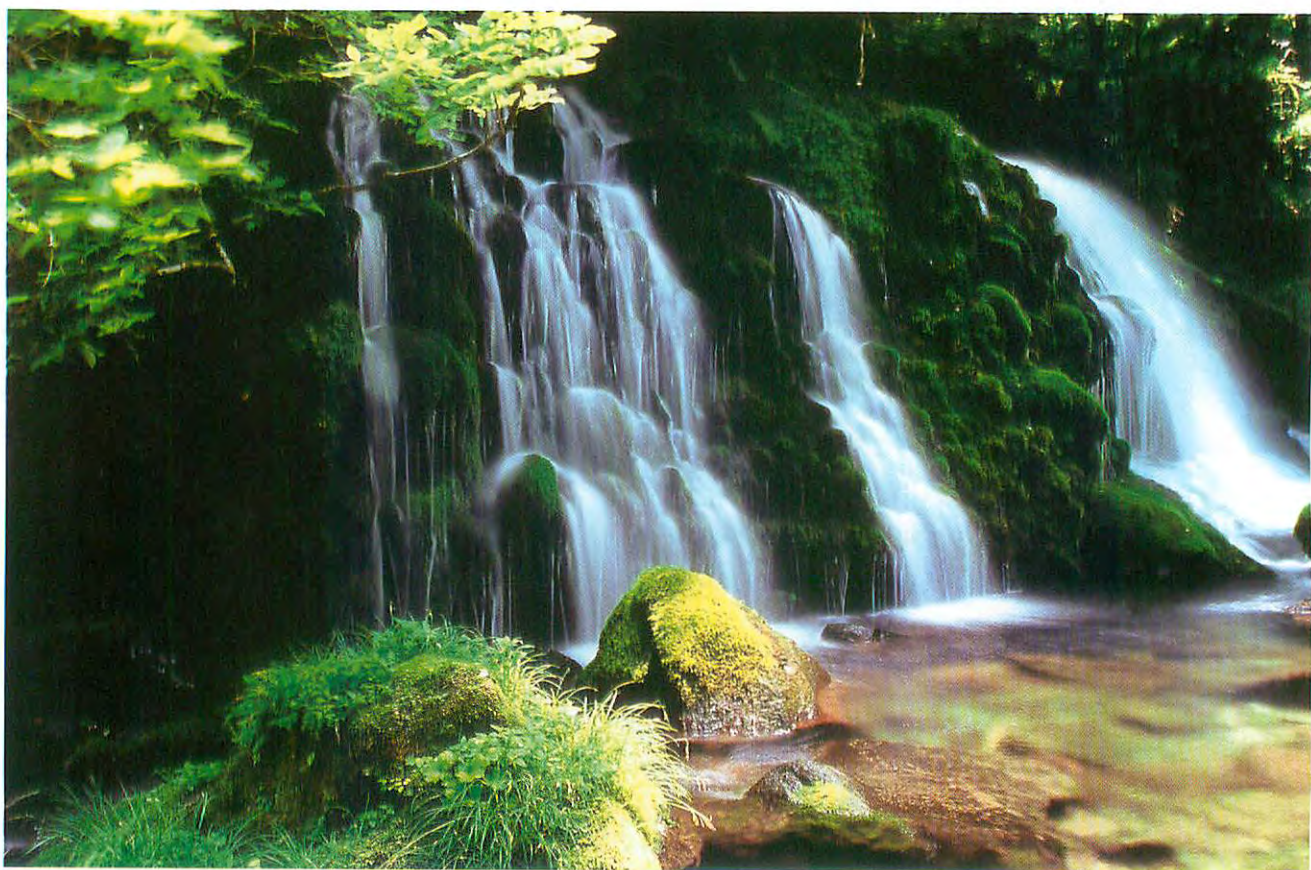


北光

第 144 号

平成21年8月6日



北光会 (<http://www.hokkokai.com>)

秋田鉱山専門学校
秋田大学鉱山学部 同窓会
秋田大学工学資源学部

秋田大学工学資源学部は、明治44年(1911年)に秋田鉱山専門学校として新入生を迎えて以来、平成23年(2011年)に創立100周年を迎えることになります。

目 次

巻 頭 言	田 中 隆 夫	1
会長便り	菊 地 芳 朗	2
平成21年度北光会第1回理事会・ 第58回通常総会報告	及 川 洋	4
工学資源学部3号館リニューアル!	田 口 正 美	16
DOWAホールディングス(株)寄付講座 「リサイクルプロセッシング講座」と これからの資源教育研究について	柴 山 敦	17
「一つ星」の光のもとに集う －北光会大学支部－ 「北光」編集委員会合同運営会議(第1回)開催について	佐 藤 博	18
学部創立100周年記念事業報告		19
秋田大学手形キャンパス、環境に関する国際規格 「ISO14001」の認証取得(授与式挙行)	中 田 真 一	21
「秋田大学地域アカデミー」を実施します 「寄稿」		22
加納博先生のご逝去を悼む	丸 山 孝 彦	23
経済学との出会い	細 井 義 孝	24
平成21年度東京支部山手線徒歩一周報告	大 山 宏	25
北光寮45周年式典及び閉寮式典のご案内		26
北から南から		27
母校だより・会員だより・会員消息		35
事務局から		39
訃 報		39
編集後記		40
学部創立100周年記念寄附者御芳名		45

写真説明：元滝伏流水（秋田県にかほ市）

岩肌から湧き出る伏流水が、周囲の緑とあいまって、落ち着いた雰囲気と清涼感を与えてくれます。なお、本来の「元滝」はこの近くにある別の滝です。

撮 影：杉山 渉（MH2）

次代に託すもの

中国支部長 田 中 隆 夫 (GS42)



去る5月30日広島で第58回通常総会他が中国・四国・九州3支部共催(主幹中国支部)のもとに行われました。北光会創立81年目が広島からスタートしたことになります。

景況が急激に悪化する中で、追い打ちを掛けるかのような1カ月前からの新型インフルエンザ騒

ぎに内心気がかりでしたが、お陰様で参加者も70名に達し、どうにか「全国規模」を標榜して恥じないレベルになりました。参加者や本部および各支部の方々に厚くお礼を申し上げる次第です。

支部の同窓会活動に関わっていて、浮き彫りにされた課題はたった一つです。それは同窓会への関心の低さを如何にして反転させ、参加者を増やすかという点です。

北光会全体の傾向としては、会費納入率に表されるように卒業年次が若くなる程低くなっていることがありますが、当支部に於いては、会合への参加・不参加の意思表示すら少ないということ克服することはかなり難問題です。またこのことが支部特有の傾向であるかどうかはもう少し精査しなければなりません。過去休眠期間を2度経験している支部活動の変遷が対応を図る上での一つの材料になるものと考え、所見を以下に述べさせていただきます。勿論若い時分には北光会に無関心(会費は納入していたと思う)であった自分への忤怩たる思いも込めた上でのことです。

今から21年前の1988(S63)年12月末、同業者の先輩諸氏4～5名と忘年会をした時のこと、先輩から“来年は君が幹事だよ”といわれました。その時に何故か頭に浮かんだのは“あ～あ、俺もそんな年代になったのかあ”ということでした。居住地域の自治会活動などを通じて、“人には各年代によって要求される役割がある。いわばそれは無形の税金みたいなものだ”と思っておりましたので、“来年の幹事”といわれた時もさして驚きはしませんでした。翌1989年12月の忘年会は、同業者仲間に限定せず、広島地区と銘打って県内の会員に広く参加を呼びかけました。その結果、最終的には若年代から大先輩まで30名弱が集まり支部再興のきっかけとなりました。

1957(S32)年3月発足の中国支部は、その後私

が知るところでは支部活動は全体的なものではなく、呉や松江、新見など各地区で行っていたようでした。問題はそれらの活動が支部全体の活動にリンクすることがないままだったことから、いわば表向き休眠状態にも等しいようになっていたのが実状でした。

再興後幹事役の労苦により、1997(H9)年1月の新年会まで続けましたが、残念ながらまた2001(H13)年までの4年間休眠状態になってしまいました。

2002(H14)年1月、有志が再建に乗り出し、支部の組織および連絡体系、名簿(本部のものに出身地や趣味特技を加えたもの)作成、各県からの理事や地区世話役等役員選出他が整備完了し、11月再々興となる支部総会に漕ぎ着けました。

以後決して順風満帆とはいえませんが、もう過去と同じ轍は踏むまいと、活動を繋いでおります。

活動の基本姿勢は「参加しやすい、参加してよかったと思える会合」にすることです。そのための具体的な手法としては、いろいろありますが、例えば総会後の懇親会時、参加者へは必ず近況その他を話す時間を均等に設け、会員の情報を参加者全員が共有できるようにする、また配付資料には出席・欠席を問わず、返信のあった全員のメッセージを漏れなく載せるようにする…などです。資料は出来るならば欠席者全員にも送付するようにしたいとは思いますが、経費の面から任意で活動資金援助を頂いた欠席者へのみお送りすることにしております。

会合へは平成1桁や2桁年代も出席するようになりましたが、前述の試みの成果といえる有意な関係は見出すまでにはなっておりません。しかし当分はこれらの手法を続けていこうと考えています。

同窓会に対する想いや活動の是非、あるいは意思表示の要否については各自異なっているでしょうし、それでいいと思います。しかし長い人生の中で、僅か4年間同じ学び舎で過ごしたことが尊敬や信頼感あるいは安心感という接着剤でお互いを結びつけていることの素晴らしさは今後も残していった方がいいと思うのです。

月日は百代の過客、偶然のきっかけとはいえ北光会と関わりを持ってから20年余の中で2度の再興機会を経験して、とにかく今は、自由で肩の凝らない企画やアイデアで中国支部を体系的に補強構築し、次の世代に引き継ごうと考えております。

「広島総会」と「軍艦島」

菊 地 芳 朗 (GS34)



今年の総会は、中国・四国・九州の3支部共催のもと広島で行われました。3支部のご尽力のお陰で成功裏に終えることが出来ました。関係者各位に感謝申し上げます。

総会では「昨年の北光会創立80周年の総会から1年を経過しました。その間アメリカ発の百年に一度という経済恐慌に新型インフルエンザが加わり、それに北朝鮮の核実験と、何か世の中が騒然としております。

特に、北朝鮮の核実験の時に、ここ広島で総会を行ったのも何かの因縁でしょうか。私共もこの世界から核爆弾の無くなることを願わずにはおられません。

こんな中で、これからの北光会ですが、学部創立100周年記念事業が最大の関心事であります。これを成功させるためにも、北光会の課題であります、会の活性化と会費納入率の向上の解決が大切なことと思っております」と述べたところです。

創立100周年記念の募金ですが、6月30日現在、3,258件で総額1億3,772万円のご芳志を頂き衷心よりお礼申し上げます。その内、北光会は2,789名7,012万円（創立75周年記念の集計方法に準ずる）であります。目標額1億円の約7割となっております。募金期間は残すところ2年2ヶ月であります。なお一層のご支援をお願い致します。

今年も8月の「北光」（本号）に趣意書を同封し募金をお願いすることと致しました。昨年の例を北光会員の納入状況で見ますと、7月のご芳志は24万円でしたが、8月は247万円、9

月は114万円頂きました。10月は43万円、11月は23万円でありました。このように成果がありますので、今後も続けていきたいと考えております。勿論、企業等の募金にも一段と力を入れなければなりません。

しかし、この度の金融危機でどうなりますか、心配しておりますが、物事を前向きに考えていくことが大切と思っております。最近になって「景気は底を打った」との政府宣言がありました。本物であることを願わずにはられません。

募金金額のところで（創立75周年記念の集計方法に準ずる）と述べておりますが、このことについて説明しておきます。

募金活動を始めるにあたり、北光会は総額3億円のうち1億円を目標と致しました。これを決めるには創立75周年記念と鉱業博物館創立30周年記念の募金結果を参考と致しました。学部75周年と博物館30周年の時は学部卒業の教職員と教職員OBは北光会員として集計されております。ところが平成18年の北光会定款の改正により卒業生以外で学部に「在職する職員」と「在籍した職員」は特別会員となりました。これを踏まえて、学部からは教職員と教職員OB全員を教職員として集計することにしたい旨の意見が出ました。新しい定款からすると、これもやむを得ないことと思われます。しかし北光会は、先に申しましたように学部卒業の教職員と教職員OBを会員として目標額を決めております。目標額の達成率を検討するために（創立75周年記念の集計方法に準ずる）と記載した集計表を作成しております。

本号に「学部創立100周年記念寄付者御芳名」が掲載してあります。ここで掲載されている集計表の中で（創立75周年記念の集計方法に準ずる）と記載のない「創立100周年記念事業寄付

金納入状況」は改正定款に基づき教職員と教職員OB全員を教職員として集計したものです。ここで述べましたことをご理解頂き、ご検討お願い致します。

さて、北光会自体の課題としては、先に申しましたように永年のテーマでもあります会の活性化と会費納入率の向上があります。

活性化につきましては若年層、特に平成年度卒業生のことですが、最近各支部総会に若い方の出席が多くなってきました。

会費納入率の向上は活性化が出来ますと解決するものと考えております。しかし、支部別や卒業学科別に納入率に差があります。皆様のご協力をお願い致します。

6月6日の九州支部総会に出席した翌日、「軍艦島」を訪ねてみました。「軍艦島」と言っても若い会員の皆様にはご存じない方もおられることと思います。旧・三菱石炭鉱業(株)が操業しておりました端島炭鉱のことです。



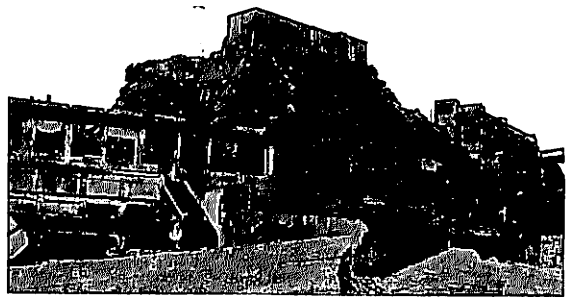
現在の軍艦島（旧・端島炭鉱）、左遠方に高島（旧・高島炭鉱）が見える

長崎半島から西に4.5Km、長崎港から船で約1時間の所に位置する海底炭田の島であります。島の外観が鉄筋アパート群から軍艦「土佐」に似ていることから「軍艦島」と呼ばれました。正式名は端島です。

島は面積約63,000㎡で、石炭は深いところで深度1,000mから採掘され、多いときに5,300人近くの人々が生活しておりました。

昭和49年に閉山となり、これに伴い無人島と

なりました。



総合事務所（赤レンガ）、高台は貯水槽、右に職員社宅。灯台は閉山後に設置されたもの

本年1月に世界遺産暫定リスト（九州・山口の近代化産業遺産群）に掲載されました。これにより島の一部が見学できるようになりました。島全体の構造物は既に廃墟となっておりますが、これを廃墟と捉えずに人類の遺産と捉えたところに意義があると鉱業に携わった一人として思いました。これを見て、こういう環境のなかで石炭産業が戦後の日本経済を支えたことを思うと諸先輩のご努力に頭の下がる思いでした。（軍艦島については本会HP、九州支部長挨拶を併せてご覧下さい）



貯炭ベルトコンベアー、奥に7階建ての端島小中学校

北光会は皆様の会費で維持されております。会費納入率の向上にご協力下さい。

平成21年度 北光会 第1回理事会・第58回通常総会報告

事務局長 及 川 洋 (CS47)

平成21年度 第1回理事会および第58回通常総会が平成21年5月30日(土)に広島市内のアーケホテル広島にて開催されました。開催に当たってはその準備から終了まで、中国支部、四国支部および九州支部の全面的な協力を得ました。ここに記して感謝申し上げます。以下に当日の会議内容の概略を報告致します。

【第1回理事会】

理事会は14:00から15:30まで開催されました。出席者は、顧問2名、会長・副会長3名、各支部長10名、各支部理事合計30名、事務局2名の計47名です。審議事項の概略は以下の通りです。

①平成21年度役員選出の件

まず、平成21年度開始に当たって4月に理事全員による会長選挙が行われ、菊地現会長が再任(任期2年)された旨、及川事務局長より報告されました。引き続き、平成21年度名誉会員・顧問・会長以外の役員等に関して、通常総会議案書〔議案1〕(議案書は次ページ以降に掲載しています。)に記載の案が示され、審議の上、承認されました。

②平成20年度事業報告の件

通常総会議案書〔議案2〕に基づいて平成20年度事業報告が及川事務局長よりなされ、審議の上、承認されました。

③平成20年度決算報告の件

通常総会議案書〔議案3〕に基づいて平成20年度経常費決算報告が鈴木会計担当理事よりなされ、審議の上、承認されました。また、平成20年度基金の使用状況およびその収支決算報告も鈴木会計担当理事よりなされ、審議の上、承認されました。

④平成21年度事業計画(案)の件

通常総会議案書〔議案4〕に基づき平成21年度事業計画(案)が及川事務局長より説明され、審議の上、承認されました。

⑤基金取り崩しの件

平成21年度予算策定に当たり、基金の取り崩しが必要である旨、及川事務局長より説明があり、21年度分として4,805,780円の取り崩しが認められました。ただし、「このままでは数年後に基金は消滅するので、何らかの対策を考えておくべきではないか」との意見が出されました。これに対し、事務局としては経常費の節約や機関誌「北光」の発行回数の削減など、経費節減の検討に入っている旨の説明がなされました。

⑥平成21年度予算(案)の件

通常総会議案書〔議案5〕に基づき平成21年度経常費予算(案)が鈴木会計担当理事より説明され、審議の上、承認されました。

⑦その他

・【全学同窓会設立に関して】

全学同窓会設立に関する最近の準備状況が菊地会長より説明され、北光会としての対応を再検討しました。これに対して、「反対ではないが、必要性が分からない。」「万全の体制のもとに設立すべきであり、時間をかけて慎重に審議すべきである。」との意見や、「北光会出身の吉村学長の発案であり、協力した方がよいのではないか。」などの意見が出され、本理事会としては意見の集約ができず、総会に諮ることになりました。

・【創立100周年募金状況の報告】

菊地会長より、5月20日現在の募金状況が資

料に基づき説明されました。北光会の目標募金額1億円に対して現在の寄付合計額は6,955万円であり、目標達成のため、なお一層の協力を仰ぎたい旨のお願いがありました。

・【平成22年度総会開催地】

会長から、立候補する支部の挙手が求められましたが、挙手する支部がなかったため会長の発案で平成22年度は「秋田」で開催することに決定しました。これに関して小松秋田支部長より、大学支部と協同で開催したい旨の発言があり、了承されました。

・【北光会カードの件】

会費納入率向上の一方策としてカード会社に検討を依頼していたクレジット機能付き「北光会カード」の作成に関して、最終的に東北地区大学生協の協力が得られなかったのが、この話はなくなった旨、及川事務局長より報告され、了承されました。

・【その他】

「会費の納入状況はどうなっているのか。以前は学科別、年度別のデータをグラフで報告していたが、最近はそのような報告はないのか。」という質問がありました。これに対して及川事務局長から、最近は年度ごとの納入状況を通常総会議案書の最終ページに「北光会実勢調査」として一覧表の形で報告するのが慣例になっているようで、今回もその形になっているが、指摘に対しては前向きに検討したい旨の説明がなされました。

【第58回通常総会】

理事会終了後、部屋を変えて第58回通常総会が15:40から17:00まで開催されました。出席者は、上記理事会出席者に加え、西田眞工学資源学部長、佐藤博巳工学資源学部事務長および平成21年度北光会表彰者や一般会員を加え合計69名の出席でした。菊地会長および西田学部長の挨拶の後に議案の審議に入りましたが、審議

項目および審議の結果得られた結論は上記理事会と全く同じですので、ここでは割愛します。ただし、理事会で結論が得られなかった全学同窓会設立の動きに対しては、北光会は賛成するとの意見の一致がなされました。

【講演会・懇親会】

総会終了後、講演会および懇親会が行われました。講演会は、

・地球温暖化防止と超高温耐熱材料・MGC材料、と題して、

・和久芳春氏（HS45：島根大学総合理工学部材料プロセス工学科 教授）から、我々は普段知らない超高温のもとの金属材料の働きについて教えて貰い、知見を深めることが出来ました。

講演会終了後、同ホテルで18:10から懇親会が開催されました。これまでの懇親会での余興は袴姿での寮歌の合唱が定番でしたが、今回は田中中国支部長率いるマンドリンクラブによる演奏が披露されました。私は立場上、この企画を事前には知っておりましたが、特段の興味や期待もしていませんでした。ところが、その迫力や音色が素晴らしいこと、会場は一気に盛り上がりました。大合唱の後でのアンコールで北光寮離別歌を聞いたときには涙が出てきたほどです。本当に素晴らしい懇親会、有り難うございました。



「北光」143号の留学生の文章が心に沁みます。森澤 堅次 (MS38)

他にもたくさんのメッセージをいただきました。ありがとうございました。

事務局から

年会費納入のお願い

平成21年4月発行の「北光」第143号から年会費がコンビニからでも振込めるようになりました。その結果、これまでに多くの方々がコンビニを利用していることが判明しました。しかし、払込用紙が変わったことや、用紙に記載されている「トランスファーネット株式会社」の名前に戸惑っている方も多いようです。すなわち、用紙に記載の「北光会」の名前が小さく、収納代行会社である「トランスファーネット株式会社」の名前が目立つところにあるため、「これは北光会費の払込用紙に間違いなのか…」という問い合わせも多くありました。しかし、その振込用紙による年会費は間違いなく北光会宛入金となります。ご安心下さいますようお願いいたします。

なお、2年分(6,000円)、5年分(12,000円)ご納入の方は、お手数をお掛けいたしますが金額を訂正の上郵便局の窓口で払込をお願いいたします。(コンビニでは金額訂正したものは受け付けられませんのでご注意ください)。

今後も皆様方のご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

北光144号に同封の払込用紙は、21年度分年会費が未納(平成21年6月30日現在)の方のみお送りしておりますが、行き違いがございましたらご容赦の程お願い申し上げます。

寄附金(北光143号発行後受付順、敬称略)

次の方芳志を頂戴いたしました。厚くお礼申し上げます。

故 立川 三男 (ES30)	ご遺族	3,000円
故 中澤 正 (ES17)	〃	3,000円
故 中澤 雄一 (BS48)	〃	13,000円
故 佐々木勝郎 (MS15)	〃	3,000円
故 本間 宏 (ES19)	〃	3,000円
菊地 祥子 (DH5)		10,000円
佐藤 昭一 (GS41)		5,000円

訃 報

加 納 博 先生 ご逝去

秋田大学名誉教授、加納 博先生(BS17北光会顧問)は、平成21年6月6日ご逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

(北光143号発行後連絡を受けた方々) 連絡先については事務局にお問い合わせ下さい。

科・年	氏 名	死亡年月日			
HS5	丹 野 佐 良	東京都	MS16K	佐々木 茂	埼玉県
HS9	牛 山 五 介	神奈川県	MS16Z	佐 藤 正 二	静岡県
MS12	和 田 雅 敬	千葉県	MS16Z	高 谷 勝 夫	東京都 H20年1月14日
FS14	尾 上 保 正	鹿児島県	MS16Z	柳 美三夫	千葉県 H21年3月17日
MS15	佐々木 勝 郎	愛知県	ES17	中 澤 正	三重県 H21年2月26日
BS16Z	小 西 泰次郎	東京都	MS17	松 本 定 司	東京都 H21年3月14日
BS16Z	田 口 錡 一	神奈川県	ES18	伊 藤 努	秋田県 H21年6月2日
			ES19	本 間 宏	東京都 H21年4月20日

FS19	越後谷 健 一	秋田県	H21年 4 月26日	BS25	阿 部 亀 幸	宮城県	H21年 2 月11日
OS19	清 水 利 夫	愛媛県	H21年 1 月26日	BS26	三 田 正 巳	北海道	H21年 3 月21日
OS19	三 浦 慶 五	神奈川県	H20年12月 3 日	ES26	島 田 吉 松	秋田県	H21年 2 月22日
ES20	国 田 精 二	千葉県	H21年 4 月16日	ES28	加 藤 肇	秋田県	H21年 4 月 6 日
ES22	大 本 功 二	岡山県	H20年 3 月20日	ES30	立 川 三 男	宮城県	H21年 1 月 3 日
MS22	長 崎 正 明	秋田県	H21年 5 月19日	MS31	赤 木 義 矩	千葉県	H21年 6 月20日
MS22	花 八 三 郎	栃木県	H21年	ES31	山 内 公 一	秋田県	H21年 3 月 7 日
BS22	石 塚 勉	千葉県	H21年 6 月30日	MS34	石 井 寛	北海道	H20年 7 月16日
TS22	山 村 種 利	東京都	H21年 5 月23日	MS35	小 坂 和 男	愛知県	H21年 5 月27日
BS23	奈 良 恵 一	秋田県	H21年 4 月 9 日	BS36	吉 田 孝 宏	宮城県	H20年11月28日
FS23	笠 井 周 市	神奈川県	H20年 5 月16日	BS40	和 田 忠 雄	神奈川県	H19年 3 月 3 日
BS24	宮 田 強 哉	千葉県	H21年 4 月12日	FS40	田 中 康 夫	千葉県	H21年 5 月25日
HS24	渡 辺 久 義	新潟県	H21年 3 月25日	BS48	中 澤 雄 一	宮城県	H20年10月 8 日

— 編 集 後 記 —

皆様に「北光」第144号をお届けする頃は、竿燈祭りや大曲全国花火大会の本番を迎える夏真っ盛りの時期になっていると思います。今年の梅雨は短めであるといわれており、猛暑が続く夏になりそうです。

先日、北光会大学支部長、北光会事務局長をはじめ、「北光」編集委員経験者や大学院生などの有志で、北光会大学支部と「北光」編集について語り合う機会がありました。そこでは自分達の若い頃の話や編集委員当時の編集エピソードなど、さまざまな事柄について懇談しました。その中で、会員がもっと親睦を深め、団結して北光会大学支部を盛り上げていこうという決意が皆に満ちておりました。また、編集委員会として「北光」を多くの会員に読んで頂けるように、特に在学生など若い人に興味を持って頂けるような内容・構成にしようと検討しております。それがなかなか難しく試行錯誤しておりますが、今回お集まり頂いた元編集委員の先輩方の意見、経験を参考にして編集により一層努めていきたいと思っています。

最後になりましたが、ご多忙の中、ご執筆をお引き受けくださいました方々、またご寄稿くださいました方々に編集委員一同、感謝申し上げます。(齋藤憲寿 CH18)

発行所 〒010-8502 秋田市手形学園町1-1
秋田大学工学資源学部 北 光 会
URL: <http://www.hokkokai.com>
E-mail: info@hokkokai.com
電 話 018 (835) 9822
018 (889) 2317
F A X 018 (835) 9822
振 替 02510-5-1231

発行人 及 川 洋 (CS47)

編集委員
大友 崇穂 (KS47), 今井 忠男 (BS63)
平元 和彦 (MH3), 山下 剛司 (RH4)
宮崎 敏夫 (MH8), 高橋 毅 (EH10)
福田 誠 (EH14), 佐藤 菜花 (WH18B)
齋藤 憲寿 (CH18)

北光会事務局

事務局長 及 川 洋 (CS47)
庶務担当理事 麻 生 節 夫 (HS52)
会計担当理事 鈴木 雅 史 (ES60)
ホームページ担当理事
横 山 洋 之 (DH1)
コンピュータ担当理事
玉 本 英 夫

事務室 遠 藤 福 子, 佐々木 静 子
印刷所 秋 田 活 版 印 刷 株 式 会 社

工学資源学部創立100周年記念事業 達成への再度のご協力依頼

創立100周年記念会会長 徳 田 弘
秋田大学工学資源学部長 西 田 眞
北 光 会 会 長 菊 地 芳 朗

工学資源学部創立100周年記念事業達成に向けての募金活動を開始してから、本年6月末で丸3年が過ぎ、残すところ2年余りとなりました。この間、多くの方々並びに企業から多大なご芳志を賜りました。同時に手紙やファックスなどを通じて北光会員の方々から、叱咤激励のお言葉を頂いております。厚く御礼申し上げます。

本号の会長便りにありますように、目標額3億円の内、北光会の目標額は1億円で、6月末現在2,789件7,011万7,426円のご芳志を頂いております。この額は北光会目標額の70%です。ここで〇〇名でなく△△件とした理由は、上記寄附金の中に、支部総会・例会やクラス会などで、100周年記念事業達成のために集めて頂いたカンパ金が含まれているためです。

一方、企業を含む全体の状況は、本年6月末現在、3,258件1億3,772万3,926円で、募金目標額3億円の46%と低率です。これは、一昨年までの公共事業費の大幅な削減に加えて、昨年からは100年に一度という世界的な経済恐慌に陥り、予定していた企業からの寄附金が零回答や大幅減少回答に起因しております。このことは、企業にお願いに行かれた工学資源学部の先生方の実感です。

政府は最近「景気は底を打った」と宣言しましたが、最近の株価の変動からみると景気が上向くにはかなりの時間を要するに相違ありません。

募金期間は平成23年9月末までとなっておりますが、同年10月に予定しております記念式典では「創立100年史」の配付並びに「鉱業博物館の拡充・整備」のご披露を予定しています。前者は各学科の編集委員が執筆を始めておりますが、後者への取り組みは大幅な予

算減で本年度から具体的な作業に入りました。

そこで北光会員の方々に三つお願いがあります。これまでにご芳志頂いた方のご芳名が後ろに掲載されています。これを参考にして同窓生の方々への呼びかけをお願いします。このことは昨年もお願ひしたことです。

二つ目は、クラス会や各支部あるいは部会などを開催した際に、100周年事業達成のためのカンパ活動をお願いします。この活動による寄附件数はこれまでに25件あります。件数は少ないかも知れませんが、北光会員に与える効果は大きいと考えられますから、是非取り組んで下さい。

最後のお願いに移ります。北光会は6月末で目標額の70%となったと述べましたが、後の表で示すように学科間や卒業年次によってかなりのアンバランスがあります。こうしたアンバランスを埋める努力を、支部や部会など北光会の各種行事を通じて会員に働きかけることを切にお願いします。不況のため賃金やボーナスが減額している折り、特に若い会員にとっては、家計のやりくりが大変なことでしょうが、創立100周年記念事業を達成するために、ご協力を切にお願いする次第です。

最後に、昨年も北光第141号に書きましたが、卒業年次別募金額の目安は、昭和44年以前の卒業生は15,000円以上、昭和45年～昭和57年の卒業生は30,000円以上、昭和58年～平成7年の卒業生は25,000円以上、平成8年以降の卒業生は20,000円以上。

今回も最新版の払込・振替用紙入りで「募金趣意書」を、北光144号と一緒に全員に送付しました。既にご芳志された方にはご迷惑をおかけしますが、ご容赦下さい。

学部創立100周年記念 寄附者御芳名

45ページ以降に収めました企業を含む寄附者の御芳名は、平成18年7月1日から平成21年6月末日までに受け付けた分です。
ご寄附を頂いた方々に厚くお礼申し上げます。

寄附金

累計件数 3,258件

累計金額 137,723,926円
(平成21年6月30日現在)

創立100周年記念事業寄附金納入状況 (平成21年6月30日現在)

区 分	募金者数	金 額(円)	目標額(円)	目標達成率
名誉教授	35	5,205,000	50,000,000	74.74%
教員OB	4	100,000		
職員OB	50	760,500		
教員	87	13,922,715		
職員	15	271,000		
工学資源学部後援会	7	17,110,000		
教職員小計	198	37,369,215	150,000,000	27.77%
企業	145	40,530,000		
篤志家	8	1,120,000		
企業等小計	153	41,650,000		
鉾山専門学校卒業生 (1914年～1951年) (大正3年～昭和26年)	703	15,891,394	100,000,000	58.70%
鉾山学部卒業生 (1953年～2001年) (昭和28年～平成13年)	1,889	40,348,654		
工学資源学部卒業生 (2002年～現在) (平成14年～現在)	112	1,484,000		
北光会クラス会等	25	957,663		
北光会準会員	2	23,000		
北光会員小計	2,731	58,704,711	300,000,000	45.91%
寄附金合計	3,082	137,723,926		

※分割募金者数176件は除く

創立100周年記念事業寄附金納入状況 (創立75周年記念の集計方法に準ずる)

(平成21年6月30日現在)

		学部卒業者数	募金依頼数	募金者数	金 額(円)	納入率
鉾山専門学校 (1914年～1951年)		5,741	1,913	703	15,891,394	36.75%
鉾山学部	(昭和年度卒業：1953年～1988年)	8,866	6,500	1,646	36,297,654	25.32%
	(平成年度卒業：1989年～2001年)	5,655	5,062	243	4,051,000	4.80%
工学資源学部 (2002年～現在)		2,590	2,357	112	1,484,000	4.75%
北光会クラス会等				25	957,663	
北光会準会員				2	23,000	
北光会員	名誉教授		90	15	3,190,000	64.44%
	教員			33	7,842,715	
	教員OB			1	10,000	
	職員			3	130,000	
	職員OB			6	240,000	
北光会員小計			15,922	2,789	70,117,426	17.52%
名誉教授			440	20	2,015,000	30.23%
教員				54	6,080,000	
教員OB				3	90,000	
職員				12	141,000	
職員OB				44	520,500	
企業				145	40,530,000	
工学資源学部後援会				7	17,110,000	
篤志家				8	1,120,000	
小 計				293	67,606,500	
分割件数				176		
寄附金合計				3,258	137,723,926	

寄附金額合計

3,258件

137,723,926円

(創立75周年記念の集計表方法に準ずる) については「会長便り」をご覧ください。

北光会員寄附金額内訳一覧 (創立75周年記念の集計方法に準ずる)

(平成21年 6 月30日現在)

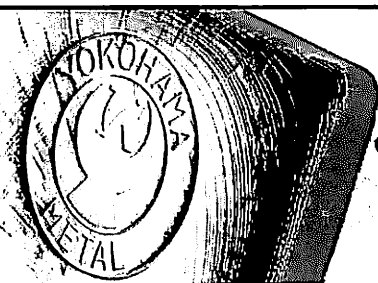
学科名等		学科コード	募金依頼数	募金者数	金 額(円)	納入率
採鉱		B	1,267	408	8,812,760	32.20%
採油		O	153	77	2,486,394	50.33%
鉱山		BM	191	90	1,680,000	47.12%
探鉱		T	73	25	520,000	34.25%
地質		G	453	136	3,568,000	30.02%
冶金		H	904	261	6,893,394	28.87%
金属		K	829	148	3,523,000	17.85%
燃料		F	1,190	293	7,039,000	24.62%
資源化学		R	244	16	350,000	6.56%
機械		M	2,462	456	7,665,000	18.52%
生産機械		P	383	44	732,000	11.49%
電気		E	2,473	430	8,047,500	17.39%
電子		D	537	33	700,000	6.15%
土木		C	1,471	164	3,904,000	11.15%
資源・素材		S	643	34	540,000	5.29%
物質		A	765	26	378,000	3.40%
情報		I	571	15	230,000	2.63%
地球資源		W	340	10	85,000	2.94%
環境物質		U	469	16	215,000	3.41%
材料		Q	342	7	110,000	2.05%
博士後期課程		X	25	3	45,000	12.00%
選科		Z	7	1	10,000	14.29%
特設・通信		L	40	11	190,000	27.50%
北光会準会員				2	23,000	
北光会クラス会等				25	957,663	
北光会員	名誉教授		90	15	3,190,000	64.44%
	教員			33	7,842,715	
	教員OB			1	10,000	
	職員			3	130,000	
	職員OB			6	240,000	
合 計			15,922	2,789	70,117,426	17.52%

寄附金額合計

2,789件

70,117,426円

(創立75周年記念の集計表方法に準ずる) については「会長便り」をご覧ください。



横浜金属株式会社

終わりのない鉱脈は、都市にある。

Gold Silver Platinum Palladium Rhodium Ruthenium

- 社団法人日本金地金流通協会正会員
- L.M.E.(ロンドン金属取引所)銀地金公認ブランド
- 東京工業品取引所 銀地金受渡供用品指定ブランド
- 東京工業品取引所 銀地金指定鑑定業者
- 日本工業規格表示許可工場(銀地金)
- ISO9001認証登録(横浜金属株式会社)
- ISO14001認証登録(横浜金属商事株式会社)
- ISO9002認証登録(裕昌金属工業株式会社)
- 社団法人日本経済団体連合会会員(横浜金属株式会社)

貴金属 精製・精錬

貴金属 歯科材精製・材料販売

貴金属 工業材料

貴金属 宝飾品加工販売



YOKOHAMA METAL CO., LTD.

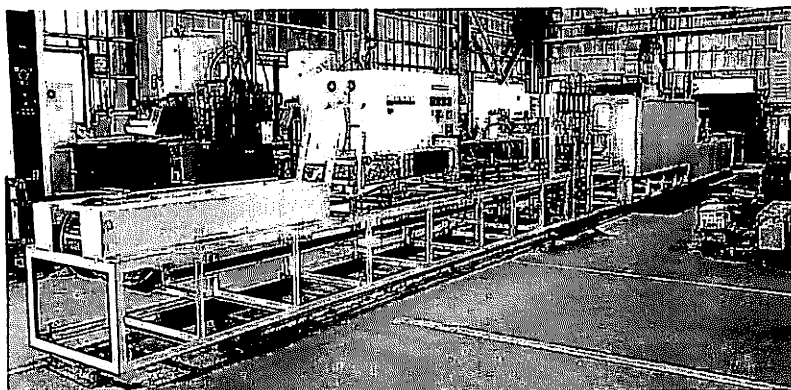
横浜金属グループ

横浜金属商事・JCY・裕昌金属工業(韓国)

本社/〒229-1132 神奈川県相模原市橋本台3-5-2 Tel 042(773)4411 Fax 042(773)4775
<http://www.yk-metal.com>

ステンレスの光輝焼鈍・硬化処理

精密鍛造の光輝球状化焼鈍



株式会社 **サーマル**

〒173-0014 東京都板橋区大山東町38-8

Tel.03-3962-4011 Fax.03-3963-0694

URL <http://www.e-thermal.co.jp> E-mail thermal1@sepia.ocn.ne.jp